

マザーレイクフォーラム 「つながりに気づき、つながりを築く」

決定！マザーレイクフォーラム賞！ ～第10回淡海の川づくりフォーラム～



マザーレイクフォーラム運営委員会

平成29年2月4日に開催された「第10回淡海の川づくりフォーラム」で、初出場にして見事“マザーレイクフォーラム賞”を受賞された「釣り人による清掃活動」さんから、活動紹介や当日の感想を寄稿していただきましたので、ここにご紹介します。

🐟 目的は「水辺での笑顔づくり」

「釣り人による清掃活動」とは、水辺が大好きな者が集い、水辺での「笑顔づくり」を行なう活動です。「ただのゴミ拾いでしょ？」と思われるかもしれませんが、朝から清掃活動をしていると、道ゆく人に「ありがとう！」と声を掛けていただけます。「ありがとう！」を怒りながら言う人はいません（笑）。笑顔で言ってもらえると、こちらにも笑顔になります。そして、ゴミを拾い集め、水辺からゴミが無くなってくると、自然と笑顔になります。さらに、作業をやり終えて「お疲れ様！」と言い合えば、また笑顔になります。

…そんな笑顔づくりの活動を、2015年12月から始めました。最初はたった2名でのスタートでしたが、今日(2017年2月)までに計8回の“笑顔づくり”を行ない、その8回目は、「瀬田川リバプレ隊」や「琵琶湖河川レンジャー」の皆さんとの協働により、総勢26名で笑顔を作ることができました。

🐟 偏見を払拭して、心を通じあわせたい！

「釣り人による清掃活動」を行なうに至った背景には、一般的に「釣り人＝マナーが悪い」というイメージが少なからずある、ということがありました。特にバス釣り愛好家は、そのような目で見られる風潮があるのではないのでしょうか。

そこで、釣り場周辺の住民の方々や、琵琶湖を訪れる人々に、我々が清掃活動に取り組む姿を実際に目にしてもらったり、地域の皆さんとの協働による活動へと発展することで、対話やコミュニケーションが生まれ、「相互理解」への第一歩になるのでは、と考えたのです。



「笑顔がつかれる行動」は、「笑顔が生まれる行動」とも言い換えることができます。笑顔が生まれる場所は、人が集まる出会いの場所でもあります。「夢中になれる琵琶湖・瀬田川にしたい」「風景や環境をよくしたい、維持したい、後世に残したい」者が集まる場所。立場は違えどその想いは一つ、通じ合うものだ、ということが、実際に活動してみて分かりました。我々の活動が、人と人をつなぐきっかけとなり、異文化同士の化学反応を起こし、そこから良いアイデアが生まれ、未来への可能性が広がっていく。

…そんな清掃活動を理想として、今後も継続させていきます。



「淡海の川づくりフォーラム」に参加して

今回の「淡海の川づくりフォーラム」への参加は、「発表」というより「挑戦」でした。未知の世界への冒険の扉が開く。まさに言葉通り、そのものでした。特段、発表に値するほどの特筆すべき成果があった訳でもありません。「釣り人」を代表して、ただただ、我々の気持ち・想いを滋賀の皆さんに伝えたい。我々にあるのはそれだけでした。完全アウェーの心境で、皆さんからお叱りを受ける覚悟で。

それが、思いも寄らないことに、心から温かく迎え入れていただいたのです。もう、ただ「感謝」しかありません。こんな言葉もいただきました。「びわ湖が好きでびわ湖と関わるすべての人にとって、滋賀・びわ湖は『ホームグラウンド』ですよ！決して『アウェー』じゃないので安心してください♪」

同志の「釣り人」の皆様！「大好きな水辺は自らの手で、水辺が大好きな方々と協働して守っていきましょう！」…これからの皆様一人一人の「釣り人の心得」に、この一文を付け加えていただければ光栄です。

マザーレイクフォーラム運営委員会委員より一言

「マザーレイクフォーラム賞」の選考にあたって」

発表された津熊さんは大阪在住だけあって、まずもってトークがオモシロかった。会場に居合わせたみんなが彼らを大好きになりました。県外からはるばる通って清掃活動をして、道行く人と笑顔を交わす。その心意気に、我々滋賀県民もただ「感謝」しかありません。「県外からの釣り客はマナーが悪い」…私も心のどこかにあったかもしれないそんな偏見が、彼らと出会って吹き飛びました。8月の「びわコミ会議」でも発表していただく予定ですので、乞うご期待！（暮らシフト研究所 藤田知文）

